

## 特集 時空の旅 英雄の白鳥伝説 『ヤマトタケル』

世界遺産登録で、今後世界から日本の古代史が注目されます。世界の三大墳墓のひとつ「百舌鳥・古市古墳群」には「クフ王のピラミッド」「秦の始皇帝」が及ばない魅力が二つあります。

そのひとつは、都市部の中心部で1500年前の墳墓でありながら、古代人が後世に伝えたい感性和演出、「水とみどりの調和」が古代から中世・近世・近代と引き継がれ、今なお現代人の「心のオアシス」として、日本のみならず世界に向けて輝き続けます。

二つ目の魅力は、日本人でさえ忘れられた古代文化のひとつ、「神話」の伝承です。今回の「時空の旅」で、世界遺産の古墳群と当時の文化「白鳥の英雄伝説」が、ひとつのステージでまとまりました。古代日本人の心が現代によりみえ、海外からの訪問者に伝われば感激かつ光栄です。

英雄伝説は『古事記』に詳しく書かれていますが『日本書紀』では内容と趣きが少し異なるため、類似の内容のみ記載します。(奈良時代初期：古事記の編纂712年 日本書紀の完成720年)

登場人物	(けいこうてんのう) ヤマトタケルのお父さん 在位は西暦71年～130年
景行天皇	陵墓は奈良県天理市渋谷町の「渋谷向山古墳」前方後円墳。墳丘長300m、築造は4世紀後半
ヤマトタケル	倭建命または日本武尊(やまとたけるのみこと)で主人公。幼少名はオウスノミコト(小碓命)。陵墓は宮内庁治定の三重県亀山市の「能褒野王塚古墳」前方後円墳で墳長90m。4世紀末築造。「白鳥陵」は古市古墳群と御所市の2ヶ所に治定される。
オオウスノミコト	大碓命=ヤマトタケルの双子の兄
クマソタケル	九州地方の部族
ヤマトヒメ	伊勢神宮の女官
オトタチバナヒメ	ヤマトタケルの妻
ミヤズヒメ	ヤマトタケルの二番目の妻

### クマソタケルの征伐 と ヤマトタケル名の由来

景行天皇は、出雲の国譲りのとき、オウスの激しい起伏の性格を恐れました。ヤマトからオウスの排除も考え、九州を支配している熊襲(現在の熊本県と鹿児島県のあたり)のクマソタケル兄弟を討ち取るよう命じました。オウスはクマソに出発することになったが、そのときはまだ15歳。色白の美少年で髪の毛を額の辺りで結んでいました。伊勢神宮に仕えていた叔母、ヤマトヒメの着物を借り、刀を懐に隠して出発しました。

熊襲に到着しクマソタケルの家を探し当てると護衛達が家を警備していました。家を新築している様子で、新築祝いの宴会があればそのときに襲う計画を立てて待ちました。宴会の日が来ると、オウスは結んでいた髪を解いて、叔母から借りた着物を着て、刀を隠して変装しました。もともと若く色白で美しい顔立ちのため誰も変装と気付きませんでした。

宴会に招待された女性に紛れこんでクマソの家に入りました。見かけない美しい娘を見てクマソタケルは「大変美しい娘だ。こっちに来てお酒のお供をしなさい。」といいました。飲めや歌えの大騒ぎになり宴会がピークになった頃、オウスは懐から短刀を抜き、兄のクマソタケルの胸を突き刺すと短刀は背中まで貫通し、一瞬の出来事で兄のタケルは死んでしまいました。

弟のタケルは、家来や女たちとともに逃げましたが、オウスは追いかけて、背後から刀を突き刺しました。すると弟タケルは観念して「どうかその刀を抜かないで下さい。私はあなたに言いたいことがあります。」と言いました。オウスはねじ伏せながら「よし、話せ。」「あなたはどなたですか。」「われは、ヤマト国で天下をとっている、景行天皇の王子でオウスノミコトというものだ。クマソタケルはヤマトに従わないので殺してこいといわれた。」

「なるほど、あなたのいうとおりでしょう。西の国には私たちより強い者はいません。ヤマトの国には私たちより強いものがあるということがわかりました。だから私たちの名前をあなた様に差し上げます。今日からヤマトタケルと名乗ってください。」

こう言い終わったので、オウスはとどめをさしました。これ以後、オウスノミコトはヤマトタケルと呼ばれるようになりました。

ここから『古事記』では出雲タケルの征伐に行くが、日本書紀では出雲の物語は登場しないので、省略します。ヤマトタケルはヤマトに帰り、天皇から賞賛を受けました。